

皮革用保型剤

革の性質による靴成型後の型崩れや落ち込み・革表面のシワ戻りなどを革の風合いを損なわず防止し、保型性を維持します。

環境に優しい水性タイプで、作業性も良く、加熱してもホルマリン等を発生しません。

品名	種類	特徴
保型剤 #312	ミディアムタイプ	革裏面に塗布し、加熱処理する事により保型効果が得られるタイプです。 ミディアムタイプ、ハードタイプの2種類ありますので革素材や用途に応じて使い分けできます。 非危険物扱いでの輸出が可能な保型剤ですので海外での生産にも適しています。
保型剤 #313	ハードタイプ	
セットアップ常温型		革裏面に塗布し、一定時間置くことにより常温で保型効果が得られるタイプです。加熱により効果は更に促進します。(アルコール含有タイプ)

【標準の使用方法】

〈保型剤 #312、#313〉

- 1、裁断した革の裏、全面または形状を安定させたい部分（履き口の周りや先芯剤との境目など）にハケなどで、1デシ当たり1～2cc位の量を塗布します。約30～40分で指触乾燥します。
- 2、加熱条件は、100～140℃で5～10分程度の処理が必要です。また、低い温度の80～100℃でも加熱時間を10～60分と長くすることで同様の効果が得られます。

3、保型剤の塗布後、加熱処理するまでの期間としては1～2日後位が最も効果が得られます。

最後の仕上げ前に160～200℃以内の熱風または熱ゴテで処理しますと、より形状を安定させる
ことが出来ます。

4、ハードタイプをクセ付けに使用する場合は、裏面から十分に塗布し、濡れた状態で型にセット
して乾燥させて下さい。

〈セットアップ常温型〉

- 1、裁断した革の裏、全面または形状を安定させたい部分（履き口の周りや先芯剤との境目など）
にハケなどで、1デシ当り1～2cc位の量を塗布します。
- 2、乾燥前に木型に吊り込み、一昼夜置き乾燥させます。

※ 使用素材の状態や作業条件など、変化する要因も多いため、事前に必ず仕上を行い、ご確認下さい。

ここに提供する情報は、弊社で信頼できると信じる資料に基づくものです。一旦、顧客の皆様の手
に渡った弊社製品については、その使用条件・方法などの管理ができませんので、弊社では責任を負いか
ねます。
クレーム防止のため、仕上後の商品に対する検査および物性などは、責任をもってご確認下さい。

東京 : 〒111-8610 東京都台東区寿4-16-7 TEL : 03-3844-7117 FAX : 03-3843-1277
大阪 : 〒550-0003 大阪市西区京町堀2-13-6 TEL : 06-6448-7814 FAX : 06-6448-7791

担当